陸連時報

2014 平成26年 7 月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

目　　次

理事会報告 246

2014年度日本グランプリシリーズ各ブロック報告（強化委員会） 248

第26回ワールドカップ競歩大会報告（強化委員会競歩部長　今村文男） 252

国際陸上競技連盟（IAAF）カウンシル会議報告（国際委員長　田中克之） 254

JAAFアスリート発掘育成プロジェクトクリニック事業について（普及育成委員会） 256

国際陸上競技連盟（IAAF）競歩委員会報告（強化委員会競歩部長　今村文男） 257

2014数字で見る陸上競技Vol.2　都道府県公認審判員数 258

大会観戦ガイド 259

陸協NEWS 260

事務局からのお知らせ 262

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

理事会報告

第20回理事会

日　時：2014年5月20日（火）　14：00～15：39

場　所：小田急第一生命ビル11階会議室

【議題】

〈協議事項〉

1．第3期事業報告・決算

2．スポーツ仲裁に関する規則制定

3．後援競技会規程の改定

4．第15回世界陸上競技選手権大会（2015/北京）マラソン代表選手選考方針

5．第２回世界リレー（2015/ナッソー）代表選手選考方針

〈報告事項〉

1．国際競技大会報告

2．その他

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数29名、出席者数21名（１名遅刻にて出席のため計22名の出席となった）で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

〈協議事項〉

1．第3期事業及び決算報告

尾縣専務理事より事業報告について、杉本理事・財務委員長より決算報告（表2）について、山田監事より監査報告についてそれぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。事業報告の要旨は以下の通り。なお、事業報告及び決算は評議員会の決議を経て最終的に承認される。（事業報告及び決算書は評議員会での承認後、本連盟公式ウェブサイトに掲載）

①陸上競技の普及及び指導者の育成に関する事業

・指導者資格制度に基づき、JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会を全国10会場で展開した。

・新規事業として、U16ジュニアブロック研修合宿を開始した。

・ランニング普及部を新設し、市民ランニングの指導者養成制度策定を目指して検討を開始した。

②陸上競技の競技力の向上に関する事業並びに陸上競技の国際競技会等に対する代表参加者の選定及び派遣に関する事業

2020年の東京オリンピック開催が決定したことを受け、「2020強化普及オリンピック対策プロジェクト」を発足させた。

③会員登録

2013年度の登録会員数は38万2,142人であり、前年度から約3万8,000人増加した。

2．スポーツ仲裁に関する規則制定

尾縣専務理事より、資料に基づき説明し、原案の通り承認された。これにより、今後日本スポーツ仲裁機構に競技者等が仲裁申立を行い、仲裁機構が応諾した場合、本連盟は自動的に応諾することとなる。

表１　後援競技会規程の改定

従　前	改定後
（競技会運営組織） 第10条　後援競技会は、主催に、加盟団体、地域陸上競技協会もしくは協力団体が入っていること。 ２　後援競技会は、共催もしくは後援に、開催地都道府県、開催地区市町村及び地域陸上競技協会のいずれかが入っていること。 ３　後援競技会は、共催、後援もしくは協力に、新聞社あるいはテレビ局が入っていること。 ４　後援競技会は、主管に、加盟団体が入っていること。	（競技会運営組織） 第10条　後援競技会は、主催に、加盟団体、地域陸上競技協会もしくは協力団体が入っていること。 ２　後援競技会は、共催もしくは後援に、開催地都道府県、開催地区市町村及び地域陸上競技協会のいずれかが入っていること。 ３　後援競技会は、共催、後援もしくは協力に、新聞社あるいはテレビ局が入っていること。 ４　後援競技会は、主管に、加盟団体が入っていること。但し、主催に、加盟団体が入っている場合はその限りではない。

スポーツ仲裁に関する規則

公益財団法人日本陸上競技連盟の決定に対する競技者等の不服が公益財団法人日本スポーツ仲裁機構に申し立てられた場合は、同機構の定める規則に基づく仲裁により解決する。

3．後援競技会規程の改定

尾縣専務理事より、後援競技会規程の改定について資料に基づき説明し、原案の通り承認された（**表1**）。

4．第15回世界陸上競技選手権大会（2015/北京）マラソン代表選手選考方針

5．第2回世界リレー（2015/ナッソー）代表選手選考方針

原田理事･強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。なお、両選考方針とも国際陸上競技連盟（IAAF）より各競技会の正式な要項等が確定した後、選考要項として確定する。

〈報告事項〉

1．国際競技大会報告

原田理事・強化委員長より、第21回世界ハーフマラソン選手権大会及び第26回ワールドカップ競歩の結果について、資料に基づき報告した。

2．その他

①強化委員会報告

原田理事・強化委員長より、セイコーゴールデングランプリ、日本グランプリシリーズ、その他競技会における選手の現状等を報告した。

②IAAFの動向について

田中IAAFカウンシル・国際委員長より、最近のIAAFの動向について報告があった。

③東京オリンピック等について

横川会長より、東京オリンピック・パラリンピック関連事項、また新国立競技場に関する状況報告があった。

表2　第3期決算 対前年度比較

（単位：円）

【収入の部】			
	第3期	第2期	前年差額
1. 基本財産運用収益	7,831,788	4,004,838	3,826,950
2. 登録料受入収益	24,218,950	21,930,000	2,288,950
3. 加盟料受入収益	4,700,000	4,700,000	0
4. 受取寄付金	2,000,000	452,200,000	△ 450,200,000
5. 受取委託金・助成金	223,852,640	188,944,200	34,908,440
6. 事業収益	1,618,751,831	1,363,877,095	254,874,736
7. その他事業収益	59,370,017	66,277,114	△ 6,907,097
8. 雑収益	8,090,870	9,064,179	△ 973,309
経常収益計	1,948,816,096	2,110,997,426	△ 162,181,330
【支出の部】			
9. 事業費	1,682,044,380	1,779,579,567	△ 97,535,187
10. 管理費	90,590,208	95,412,374	△ 4,822,166
経常費用計	1,772,634,588	1,874,991,941	△ 102,357,353
当期経常増減額	176,181,508	236,005,485	△ 59,823,977
11. 経常外費用	6,500,000	22,526,214	△ 16,026,214
当期正味財産増減額	169,681,508	213,479,271	△ 43,797,763
一般正味財産期首残高	3,036,123,581	2,822,644,310	213,479,271
一般正味財産期末残高	3,205,805,089	3,036,123,581	169,681,508

2014年度日本グランプリシリーズ各ブロック報告

強化委員会

〈男子短距離ブロック〉　伊東　浩司

第１回世界リレーの最終選考大会となっている織田記念陸上・静岡国際陸上とセイコーゴールデングランプリを振り返ると今シーズンへの期待と課題が鮮明になったと考える。まず、織田記念陸上に関して、例年好記録に会場が沸く大会だけに、予選からハイレベルな争いになった。特に、桐生祥秀選手（東洋大学）が10秒10のアジアジュニア新記録をマークし、決勝では、更なる記録の更新が期待されたが、脚の違和感のため大事をとって欠場した。その決勝では、昨年からショートスプリントに本格参入した髙瀬慧選手（富士通）が10秒13の素晴らしい記録で優勝した。10秒25の同記録２位で大瀬戸一馬選手（法政大学）、九鬼巧選手（早稲田大学）が入った。また、腰痛で調整の遅れが心配されていた山縣亮太選手（慶應義塾大学）は４位であった。本人は、不満が残る結果だと思うが、大きな存在感を示してくれた。また、オープンレースであったが、中学生の宮本大輔選手（周陽中学校）が出場。オリンピックメダリストの末續慎吾選手（ミズノ）・髙平慎士選手（富士通）と同レースで走った喜びを2020年に繋げてほしい。５月３日に開催された静岡国際陸上では、織田記念陸上同様コンディションに恵まれた。200mは、その恵まれたコンディションの中、予選から自己記録を大幅に更新する選手が続出した。特に、織田記念陸上の100mで優勝した髙瀬選手が20秒34、大学生の猶木雅文選手（中央大学）が20秒44、原翔太選手（上武大学）が20秒49と前年度の世界選手権参加標準記録（20秒52）を上回る素晴らしい記録をマークした。Ａ決勝前に実施されたＢ決勝で、大学生の谷口耕太郎選手（中央大学）が20秒45、オリンピックメダリストの髙平選手が20秒50という素晴らしい記録で走り、Ａ決勝では、更なる記録更新の期待が高まった。髙瀬選手中心のレースが予想される中、予選で20秒65と少しリズムが悪かった飯塚翔太選手（ミズノ）が、昨年の日本選手権決勝同様１番外側のレーンで、しっかりとレースの主導権を握り20秒39で優勝した。どのような環境においても力が出せるのが、世界ジュニアチャンピオンの経歴をもつ飯塚選手の強みであるが、予選ラウンドをうまく通過出来ないことが多く、ここを克服することが出来ればワールドクラスの選手の仲間入りだと考える。一方、20秒45で２位になった髙瀬選手は、決勝で記録更新はならなかったが、昨年よりレベルアップをしており、今後、飯塚選手と競り合って、世界選手権銅メダリスト末續選手が持つ日本記録に近づいてほしい。400mでは、モスクワ世界選手権代表の中野弘幸選手（愛知陸協）・山﨑謙吾選手（日本大学）の欠場が少し残念であるが、この種目の第一人者金丸祐三選手（大塚製薬）が45秒46という素晴らしい記録でシーズンインをした。44秒台を感じさせる素晴らしい走りであった。金丸選手がここまで素晴らしい走りが出来たのは、昨年度の高校ランキング１、２位の加藤修也選手（早稲田大学）、油井快晴選手（順天堂大学）の存在が大きいと考える。この両選手に加えて、３位小林直己選手（東海大学）、５位木村和史選手（環太平洋大学）と若手とされる選手が入った。このフレッシュなパワーと今までこの種目を牽引（けんいん）していた選手達が日本選手権などで競い合っていくと、一気にレベルアップすることが考えられ楽しみである。両大会とも、コンディションに恵まれ好記録が続出したのに対して、セイコーゴールデングランプリでは、昨年のモスクワ世界選手権同様、海外選手とのレースで力が出しきれない課題が出た。日本グランプリシリーズの疲労や明確な目標がないなど他の要因も考えられるが、上記の課題を克服するためには、世界トップクラスの試合配置やピーキングなどを研究することも必要だろうと考える。

〈女子短距離ブロック〉　瀧谷　賢司

日本女子短距離にとって、リオデジャネイロオリンピック、北京世界選手権に向けて、大切なシーズンの開幕である。日本グランプリシリーズは非常に意義深いスタートであることを意識し、各レースに望んだ。特に第１回世界リレー（バハマ）の出場権を獲得する事が、今年度の最大目標と位置づけた仁川アジア大会金メダルの道（４×100mリレー・４×400mリレー）へとつながる一歩であると考えた。

日本選抜和歌山

４×100mリレー

Ａチーム　44秒10〔北風沙織（北海道ハイテクAC）・土井杏南（大東文化大学）・渡辺真弓（東邦銀行）・福島千里（北海道ハイテクAC）〕

Ｂチーム　44秒96〔藤森安奈（青山学院大学）・木村茜（大阪成蹊大学）・世古和（CRANE）・市川華菜（ミズノ）〕

４×400mリレー

Ａチーム　３分36秒26〔神保祐希（筑波大学）・千葉麻美（東邦銀行）・杉浦はる香（青山学院大学）・青木沙弥佳（東邦銀行）〕

Ｂチーム　３分38秒63〔藤沢沙也加（セレスポ）・市川華菜（ミズノ）・名倉彩夏（中京大学）・田村友紀（盛岡市役所）〕

セイコーゴールデングランプリに向けてのトライアルと位置づけた最終テストであったが、４×100mリレーに関しては、予想通りのレース展開をしてくれた。バトンの流れは合宿からの成果が出たものと考えている。

４×400mリレーでは、青山聖佳選手（松江商業高校）の故障の回復が少し遅れ、レースには出場出来なかったが、市川選手の復調（ラップ52秒76）が一番の収穫であった。

織田記念陸上

100m	土井杏南	11秒57（＋1.5）
	渡辺真弓	11秒70（＋1.5）
	北風沙織	11秒72（＋1.8）
	藤森安奈	11秒73（＋1.5）
	市川華菜	11秒86（＋1.5）

静岡国際陸上

200m	土井　杏南	23秒63（＋1.8）PB
	市川　華菜	23秒74（－0.3）
	渡辺　真弓	23秒95（－0.3）
400m	松本奈菜子（浜松市立高校）	54秒22
	藤沢沙也加	54秒30

市川　華菜　54秒39
千葉　麻美　54秒82
青木沙弥佳　55秒17

セイコーゴールデングランプリ

4×100mリレー　43秒74（世界リレー標準記録突破）
北風沙織・土井杏南・渡辺真弓・市川華菜

4×400mリレー　3分34秒31
青山聖佳・千葉麻美・市川華菜・青木沙弥佳

セイコーゴールデングランプリの4×100mリレーに関しては、前日練習でエースの福島選手が故障し、急遽市川選手に変更したにも関わらず、チームの結束力で標準記録を突破出来た事は女子短距離チームにとって、未来への一歩が踏み出された感があった。4×400mリレーでは、レースの流れは非常に良かったものの、競り合う相手、バックストレートの突風という条件に恵まれず残念な結果に終わったが、可能性を感じるレースであった。今後は、個々のスプリント力を着実に向上させる事、およびチームの層を分厚くする事をテーマにして、必ず目標を実現したいと考えている。

〈ハードルブロック〉　谷川　聡

男子110mHは矢澤航選手（デサントTC）が、昨年度からの好調とともに、ハードリングがレベルアップ。織田記念陸上ではそのハードリング技術の向上から13秒65の安定した力を発揮しており、13秒4台が視野に入ってきている。増野元太選手（国際武道大学）は織田記念陸上で自己新、水戸招待陸上では13秒61と大幅に自己記録を更新して、今年大きく成長した。スプリント力とパワーを向上させており、成長が期待される。大室秀樹選手（筑波大学）も13秒6台、佐藤大志選手（日立化成）も昨年度の膝のケガから復調してきており、若手を中心に層が厚くなり、着実に代表権を獲得し、仁川アジア大会で中国勢との戦いが期待される。

男子400mHは岸本鷹幸選手（富士通）が故障あけながら、静岡国際陸上で優勝、セイコーゴールデングランプリでも日本人トップと冬期のトレーニングが充実した中で復調してきており、日本選手権で48秒台の走りが戻るであろう。安部孝駿選手（デサントTC）はトレーニング拠点が変わった中で、着実に力を戻しつつある。昨年の世界選手権からのケガがほぼ完治して、48秒台へのトレーニングが積み直されることが期待される。昨年世界選手権代表の笛木靖宏選手（チームアイマ）、今関雄太選手（渋谷幕張高校教員）はスロースタートであるが、ベテランとして日本選手権には合わせてくる模様。野澤啓佑選手（ミズノ）、松下祐樹選手（チームミズノアスレティック）は48秒台の力があるものの、社会人一年目で仕事やトレーニング拠点の変更など様々な環境の変化が影響して、試合での力が発揮されておらず、日本選手権での挽回が期待される。

女子100mHは木村文子選手（エディオン）が昨年の全日本実業団での大ケガからの復帰が危ぶまれたが、むしろ基礎体力の向上からパワーアップして今シーズンを迎え、8割程度の出来ながら織田記念陸上では13秒22で優勝した。セイコーゴールデングランプリでも12秒台の選手と肩を並べて走っており、日本選手権では長年更新されていない日本記録、12秒台を出せる状態になるであろう。昨年躍進した紫村仁美選手（佐賀陸協）、相馬絵里子選手（スターツ）はケガのため織田記念陸上を見送ったが、5月には試合に出場しており、日本選手権で木村選手とともに12秒台を目指したい。

女子400mHは久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）が長年トレーニングの拠点にしていた福島から埼玉に変えながらも、安定した力を見せた。これまで国際大会において着実に結果を残しており、仁川アジア大会での優勝が期待される。青木選手が400m重視からの400mH、吉良愛美選手（アットホーム）が57秒台から55秒台を見据えてトレーニングが進められている。

〈男子中長距離マラソンブロック〉　宗　猛

兵庫リレーカーニバルでは、1500m、3000mSC、10000mと中長距離種目が多い大会になった。グラウンドコンディションも、昨年に続き、気温の低い走りやすい時間帯で実施させて頂き、10000mに出場した村山謙太選手（駒澤大学）が自身初の27分台となる27分49秒94と日本人学生歴代5位の記録でトップレベルのレースを見せた。また、村山選手に次ぐ上野裕一郎選手（DeNA）も自己記録の28分01秒71と仁川アジア大会派遣設定記録(B)を突破する好記録であった。レースでは、27分台の記録を持つ社会人1年目の設楽悠太選手（Honda）が、スタートから外国人選手と併走するなど、若手の台頭を感じさせるレースとなった。1500mは、田中佳祐選手（富士通）が日本人トップの3分43秒14、3000mSCは、先頭の松本葵選手（大塚製薬）が8分45秒92とやや物足りない結果に終わった。

続く、織田記念陸上では、5000mでベテランらしさを見せた上野選手が後半から追い上げ、日本人トップの13分34秒97と兵庫リレーカーニバルに続き気を吐いた。

静岡国際陸上は、800mで優勝した川元奨選手（日本大学）が1分47秒24と好調さをアピールし、続くレースに期待を持たせる走りを披露した。

ゴールデンゲームズinのべおかでは、日中風が強く、気温も高く、記録は望めない状況かと思ったが、21時30分のスタートとなった5000mの最終組では、兵庫リレーカーニバルでも好調だった村山選手が13分34秒53で走り、前の組で外国人選手の組でただ一人日本人選手として走った菊地賢人選手（コニカミノルタ）の13分35秒18をわずかに上回った。本大会では、トップの村山選手に続く選手17名が13分台で走るハイペースな戦いとなった。特に、ナショナルマラソンチームのメンバーとなる今井正人選手（トヨタ自動車九州）が13分47秒15、松村康平選手（三菱重工長崎）が13分48秒14とスピード感のあるレースをしていた。松村選手は、仁川アジア大会代表としての走りに期待したい。10000mでは、昨年27分台で走った先頭の設楽選手が、後半思ったより伸びず28分15秒73でフィニッシュした。

セイコーゴールデングランプリは、800mで川元選手が横田真人選手（富士通）の持つ日本記録1分46秒16を5年ぶりに更新する1分45秒75で優勝した。静岡国際陸上からの好調さを維持し、レースでは、600mあたりから記録の期待を込めた声援が大きくなり電光掲示板に「1.45.75」と表示されると場内は悲鳴に近い声援と拍手に包まれた。特に、ラスト200mからの伸びが素晴らしく、1分44秒台のタイムを持つ外国人選手と同等以上の動きを見せた。村山選手と同じく大学4年生であり、2016年リオデジャネイロオリンピックに向けて、更なる記録の向上を期待したい。3000mSCは、先頭グループの入りの1000mが2分42秒だったが、日本選手は、スタート直後から第2グループを形成し、同じく入りの1000mこそ2分46秒前後で走ったが、後半はペースダウンして篠藤淳選手（山陽特殊製鋼）が8分36秒32で

日本人トップとなった。IAAFのグランプリ大会として、海外のトップクラスの選手が来ているので、もう少し世界の走りを体感してほしかった。

昨年は、春先に海外のレースを選択するトップ選手が多かったが、今年は、国内のグランプリレースを中心に走る選手が多かったように思える。主催陸協及び関係各所と調整し、より魅力的なレースをしていけるようにブロックとして貢献したい。

〈女子中長距離マラソン〉 武冨　豊

仁川アジア大会の選考競技会を兼ねた日本グランプリシリーズの初戦として行われた兵庫リレーカーニバル、昨年の10000mでは出場選手全体が消極的なレースになり、日本選手権の参加標準記録（32分30秒）を一人も突破出来なかった事を踏まえ、最低目標として参加標準記録を複数名突破させる事を狙い序盤にペースメーカー役を決めてレースに臨んだ。レースは1000m過ぎからカプチッチ・セリー・チェピエゴ選手（九電工）がペースアップをして抜け出したが、その流れに着いて行った萩原歩美選手（ユニクロ）や後半その２名を追った西原加純選手（ヤマダ電機）・牧川恵莉選手（スズキ浜松AC）などを中心に積極的なレース展開になり、日本選手権の参加標準記録を９名が記録を破る好レースとなった。その中でも、萩原選手・西原選手が北京世界選手権の参加標準記録（32分00秒）をシーズン初戦で突破し、牧川選手も僅（わず）かに届かなかったが、日本選手権（６月）に向け好スタートが切れた事は、まだ力不足ではあるが、新谷仁美選手が抜けた後の女子長距離にとっては明るい材料となった。また、3000mSCでも三郷実沙希選手（スズキ浜松AC）が9分54秒84の大会新記録で優勝し、仁川アジア大会代表に近づいた。

織田記念陸上の5000mは、ここでも最初から飛び出したチェピエゴ選手（九電工）に森唯我選手・西原加純選手（共にヤマダ電機）らが積極的に着いて行こうとしたが、2000m過ぎで遅れてしまい、仁川アジア大会のB標準記録には届かなかったものの、西原選手が２位に粘るなど安定した走りをしてくれた。また、清田真央選手・牧川選手（共にスズキ浜松AC）や清水美保選手（ホクレン）などの若手５名が日本選手権の参加標準記録を突破し、日本選手権での走りに期待が持てる内容だった。

しかし、今回の日本グランプリシリーズ及びセイコーゴールデングランプリで課題を残したのが、800m・1500mの中距離陣で、800mで２分08秒台、1500mも４分17秒台と昨年の高校生トップの記録にも届かなかった事は、アジア大会に向けて大きな不安材料になった。

また、長距離では若手の成長の兆しが見えるものの、女子中長距離・マラソンの記録の低迷とトップレベルで戦える選手の減少傾向は続いており、深刻な状況である事に変わりは無く、リオデジャネイロオリンピックや東京オリンピックに向けて、中長距離・マラソンを含め、根本からの立て直す強化策の必要性を感じる。

〈跳躍ブロック〉 吉田　孝久

今年度の跳躍種目の日本グランプリシリーズは４月27日の日本選抜和歌山からスタートした。そこでは男子走高跳が行われ、戸邉直人選手（千葉陸協）が２m19、衛藤昂選手（筑波大学）が２m16という結果であった。非常に風が強く、試技の途中で何度もバーが落ちるという厳しいコンディションであったが、集中力を切らさずによく健闘したと思われる。二人とも体の状態も良く、今シーズンの活躍が期待できる内容であった。女子走幅跳では平加有梨奈選手（北海道ハイテクAC）が６m34で制したが強すぎる風に助走のリズムを作るのが難しいようであった。

和歌山から１日あけた４月29日には広島で織田記念陸上が行われた。ここでは多くの跳躍種目が行われ、男子三段跳では今年から順天堂大学に進学した山本凌雅選手が追い風参考ながら16m14（公認15m97）で見事に優勝を飾った。昨年からの好調を維持しており、16m29のジュニア日本記録の更新も視野に記録を伸ばしていってもらいたいところである。男子走幅跳では菅井洋平選手（ミズノ）が安定した跳躍を見せ、７m98で優勝した。条件さえ整えば、仁川アジア大会派遣設定Bとなる８m10の記録突破も十分に可能性がある。また、学生の嶺村鴻汰選手（筑波大学）も１回目に７m93を跳躍して元気なところを見せた。２回目以降は記録を意識しすぎたために力んでしまったが、菅井選手同様に派遣設定記録突破の可能性を感じた。このほか、男子棒高跳ではベテランの澤野大地選手（富士通）が５m61で優勝した。澤野選手は４月19日のMt. SACリレーでも５m70をクリアしており好調を維持している。これに山本聖途選手（トヨタ自動車）、荻田大樹選手（ミズノ）といったモスクワ世界選手権のメンバーによる仁川アジア大会の代表争いが楽しみである。女子棒高跳は我孫子智美選手（滋賀レイクスターズ）が４m20で貫禄勝ちを収めた。

５月３日には静岡国際陸上が行われ、女子走高跳と女子三段跳が行われた。女子走高跳ではベテランの福本幸選手（甲南学園AC）が優勝したが記録は１m74というものであった。女子三段跳も吉田文代選手（郡山女大付AC）が12m94の記録で優勝した。

５月11日には、改修前、最後の国立競技場での試合となるセイコーゴールデングランプリが行われた。男子走高跳では、戸邊選手が自己新となる２m31を跳躍し見事に３位に入賞した。また、衛藤選手も自己新となる２m28で４位に入り健闘した。今回の二人の跳躍によって男子走高跳もようやく世界へ挑戦する準備が整ってきた。これからは今回の記録を基準に、更に高いバーをクリアしていってもらいたい。男子棒高跳では澤野選手が織田記念陸上につづいて５m61で優勝を果たし、腰痛で出遅れていた山本選手も５m51を跳んで順調に回復しているところを見せてくれた。このほか男子三段跳では岡部優真選手（九電工）が16m23で４位、女子走幅跳で平加選手が６m17と健闘した。

仁川アジア大会の派遣設定記録はこれまでの世界大会と同等の厳しい基準が設定されている。しかし、世界で戦うにはこの記録をコンスタントに跳ぶことが求められているだけでなく、次の世界選手権やオリンピックでは更に高い標準記録の設定が予想される。派遣設定記録に負けないで更に上の方まで記録を伸ばしていってもらいたい。

〈投擲ブロック〉 栗山　佳也

４月19・20日　兵庫リレーカーニバル

男子砲丸投；シーズン最初の競技会と気温が低い中での試合ではあったが、優勝記録が17m79、８位記録が15m98と低調なスタートとなった。仁川アジア大会で入賞するためには、日本記録に近い記録を出すことが必要であることから、上位陣には一層の奮起を期待する。

女子砲丸投；男子同様今シーズン最初の試合であり、15m以上は２人と男子以上に低調であった。２位に

なった福富栄莉奈選手（園田学園女子大学）は15m23の自己新をマークし、今後の活躍が期待できる。少なくとも16m台に２、３人届くような底上げが必要である。

女子円盤投；風のコンディションに左右されやすい種目ではあるが50mを超えたのは２名であった。アジアレベルでは大変厳しい種目であり、60mに少しでも近付くための一層のレベルアップが望まれる。

４月26・27日　日本選抜和歌山

男子ハンマー投；自己新を出したのは赤穂弘樹選手（鳥取陸協）68m96と田中透選手（チームミズノアスレティック）68m59の２名。期待された野口裕史選手（群馬綜合ガードシステム）は68m86で２位に終わったが、日本選手権では70mを超える可能性を持った若手選手と競い合うことで好記録を期待する。

女子ハンマー投；綾真澄選手（丸善工業）は64mを超える投擲をし好調である。綾選手を脅かす若手選手が出ていないのが現状である。更なるレベルアップを期待する。

男子円盤投；堤雄司選手（群馬綜合ガードシステム）には日本記録が期待されたが56m33に終わった。２位に入った知念豪選手（ゼンリン）は55m00の自己新を投げ今シーズンが期待される。

４月29日　織田記念陸上

男子やり投；新井涼平選手（スズキ浜松AC）が３投目に投げた85m48は日本歴代３位の好記録であり84m台と82m台がそれぞれ２回ずつとハイ・アベレージであり世界に向けて大いに期待できる。

女子やり投；昨年のこの大会では海老原有希選手（スズキ浜松AC）が日本記録を更新したが、脚の故障も重なり今大会は58m47に終わった。２位には宮下梨沙選手（大体大T.C.）が入ったが上位陣を脅かす若手が伸び悩んでいる感がある。

５月11日　セイコーゴールデングランプリ

男子やり投；織田記念陸上に続いて好記録が期待されたが、風のコンディションが悪く全選手、思った以上に振るわなかった。村上幸史選手（スズキ浜松AC）、ディーン元気選手（ミズノ）、新井選手を軸に日本やり投陣の世界挑戦を期待する。

女子やり投；海老原選手は脚の故障もあり思い切った投げができず２位、３位には宮下選手が入った。優勝記録が59m15と60mを超えることが出来なかったのは寂しい。

女子ハンマー投；世界の２Topを含む７名の外国人選手が出場し、綾選手の62m62も良くないが60m台後半でないとどうにもならない現状から世界との実力差は否めない。

今春の一連の試合で最も高い評価ができるとすれば、織田記念陸上での新井選手の85m48である。これに近い投げがコンスタントに出来れば、世界大会やリオデジャネイロオリンピックにおいても相当期待できるものと思われる。今一歩出遅れているほかの種目は日本選手権に期待する。

〈混成ブロック〉　　本田　陽

昨年から４月第４週目に開催されている日本選抜和歌山であるが、これまでと比較すると天候が安定し２日間とも好天気のもとで開催された。男子は11名のエントリーで事前棄権者が１名、また試合中のケガにより１名が途中棄権し、９名が競技を終了した。

男子の注目は２月にニュージーランドで屋外の十種競技に出場し、春先からも記録会などで単独種目において自己ベスト記録をマークしている日本記録保持者の右代啓祐選手（スズキ浜松AC）であったが、コンディションによっては３年ぶりの日本記録更新も期待できる状態であった。初日は風にも恵まれ100mで11秒14の自己ベスト、砲丸投においてはこれまでの自己ベストを一気に１m近く更新する15m35をマーク、一日目最終種目の400mでも初めて50秒を切る49秒84で走り切った。苦手としていた初日で初めて4000点を超す4159点を記録し、8200点以上の好記録を狙えるハイペースでの折り返しとなった。２日目にややペースダウンしたものの、久々に110mHで14秒台をマークするなど健闘し、最終的には8143点の日本記録を樹立した。この記録は来年の北京世界選手権の参加標準記録も突破している。

今回の右代選手の日本記録は以前から取り組んで来た短距離種目でようやく成果が出てきたことが大きいが、砲丸投を除いては通常期待できる記録を安定してマークした結果であり、実力の底上げができている証拠である。右代選手の各種目の自己ベスト合計は8613点となっており、国際大会でも入賞を狙えるレベルである。今後はアジア大会も含めて海外の大会においての8000点オーバーの記録を期待したい。２位には２月のドイツ室内で自己の持つ七種室内日本記録を更新した中村明彦選手（スズキ浜松AC）が自己ベストの7794点で入り、7246点の音部拓仁選手（富士通）、7216点の染谷幸喜選手（Team Accel）がそれに続いた。

女子では18名がエントリーし、２名が事前出場辞退、１名がケガで途中棄権した。今年から社会人となった昨年の日本チャンピオン桐山智衣選手（モンテローザ）、竹原史恵選手（長谷川体育施設）、冨山朝代選手（東大阪市陸協）などの社会人選手に加え、昨年の七種インターハイチャンピオンのヘンプヒル恵選手（京都文教高校）、第１回全国高校陸上選抜七種競技で優勝した南野智美選手（西京高校）の高校生も参加した。試合は100mHで自己ベストに0.01秒と迫る好記録でリードしたヘンプヒル選手が砲丸投、走幅跳で自己ベストを更新、桐山選手と競り合いながら高校記録（5384点）更新の可能性もあった。やり投、800mでややペースダウンし、桐山選手に優勝は譲ったものの5298点の高校歴代２位、ジュニア歴代４位の好記録をマークした。昨年の世界ユース選手権入賞に続き、今年の世界ジュニア選手権にも意欲を見せており、夏のインターハイ他種目出場も含めて今後の活躍が楽しみである。３位、４位には竹原選手（5200点）、冨山選手（5107点、東大阪市陸協）の社会人同年代の二人が入ったが、５位の南野選手も5000点オーバーの5063点をマークした。社会人に交じって健闘した高校生のヘンプヒル選手、南野選手は2020年の東京オリンピックに向けて大事に育成していきたい人材である。

混成ブロックの目標としては今年の仁川アジア大会に男女ともに代表選手を派遣することであり、この後の日本選手権での活躍を期待したい。

第26回ワールドカップ競歩大会報告

強化委員会競歩部長　今村　文男

1．期　日：2014年５月３日（土）～４日（日）
　派遣期間：2014年４月30日（水）～５月５日（月）
2．場　所：中国　江蘇省太倉市
3．選手団：今村文男（日本陸上競技連盟 強化委員会 競歩部長）、清水茂幸（日本陸上競技連盟 強化委員会 競歩部幹事）、三浦康二（日本陸上競技連盟 強化委員会 強化育成部委員）、五味宏生（日本陸上競技連盟 医事委員会トレーナー部員）
4．成　績

５月３日（土）PM3：30～　男子10km競歩

天候：晴れ　スタート時　気温22.3度 湿度40.0％、
　　フィニッシュ時　気温24.4度 湿度30.1％

参加国	21カ国				
参加人数	41名　内失格　8名				
競技結果	順位	氏名	国名	記録	備考(達成率)
男子	1	Wenkui Gao	China	39.40	CR
	2	松永大介	東洋大学	39.45	NJR
	3	Nikolay Markov	Russia	39.55	PB
	21	棚澤　湧希	国士舘大学	44.27	92.99％
団体	5	上位2名順位の合計			

男子20km競歩団体表彰

日本選手団

５月３日（土）PM4：30～　女子20km競歩

天候：晴れ　スタート時　気温22.3度　湿度30.0％、
　　フィニッシュ時　気温25.4度 湿度25.1％

参加国	35カ国				
参加人数	88名　内失格　1名				
競技結果	順位	氏名	国名	記録	備考(達成率)
女子	1	Anisya Kirdyapkina	Russia	1.26.31	WL
	2	Hong Liu	China	1.26.58	SB
	3	Elmira Alembek	Russia	1.27.02	SB
	42	井上　麗	天満屋	1.32.55	98.80％
	54	岡田　久美子	ビックカメラ	1.35.37	97.70％
	64	道口　愛	コモディイイダ	1.36.47	95.76％
団体	11	上位3名順位の合計			

５月４日（日）AM10：10～　男子20km競歩

天候：雨　スタート時　気温17.3度 湿度85.0％、
　　フィニッシュ時　気温15.4度 湿度98.1％

参加国	43カ国				
参加人数	112名　内失格　8名				
競技結果	順位	氏名	国名	記録	備考(達成率)
男子	1	Ruslan Dmytrenko	Ukraine	1.18.37	NR
	2	Zelin Cai	China	1.18.52	SB
	3	Andrey Ruzavin	Russia	1.18.59	SB
	4	鈴木　雄介	富士通	1.19.19	98.70％
	9	高橋　英輝	岩手大学	1.20.04	98.27％
	22	西塔　拓己	東洋大学	1.20.51	99.38％
	25	藤澤　勇	ALSOK	1.21.07	98.69％
	38	森岡紘一朗	富士通	1.22.21	97.43％
団体	3	上位3名順位の合計			

5．目標、総評、分析

（1）目標：

ジュニア男子：個人10位以内２名、団体３位入賞
シニア男子：個人10位以内２名、団体３位入賞
シニア女子：自己記録の更新と団体８位以内
以上をチーム目標に掲げレースに臨んだ。

（2）総評：

ジュニア男子：2016年リオデジャネイロオリンピックや2020年東京オリンピックへ向けたターゲットエージの強化と国際大会の経験を目的とし、シニア男子の派遣と同様に個人戦でのメダル獲得および団体戦で戦うこととした。松永選手は、今夏の

世界ジュニア選手権を意識してトップ争いを演じ、見事に銀メダルを獲得した。一方、梛澤選手は、レース前の体調チェックでは不調を訴えてはいなかったが、レース内容を見る限り、不慣れな海外での生活や過度な緊張感によって、気づかないうちに、調子を落としていったのではなかったかと考えられる。

シニア男子：鈴木選手、高橋選手を中心に個人戦でのメダル獲得と総合力で戦う団体戦でのメダルを目標とし、個人戦では10位以内２名、20位以内3名を目標に掲げ、2016年リオデジャネイロオリンピックや2020年東京オリンピックへ向けたチームジャパンの意識醸成を図りながら挑んだ。男子20㎞競歩陣は、世界ランキングにおいては強豪国の一つと言える中、主要国際大会における成果に繋がらない傾向であったが、今大会においては、鈴木選手、高橋選手、藤澤選手、西塔選手らは積極的に先頭集団に加わり最後まで戦う姿勢を貫いたことが、個別順位を押し上げ、団体戦での銅メダルに繋がったと考えられる。

シニア女子：2016年リオデジャネイロオリンピックや2020年東京オリンピックへ向けた強化と国際競技力の向上の観点から女子については、海外におけるレースのピーキングと個別に掲げた目標記録や順位の達成を主目的として出場した。3選手とも序盤から劣勢を強いられ、結果的に井上選手の42位が最高順位であった。女子競歩は強化目標として、１時間30分をひとつの目安にしているが今大会においては、当該記録でも24位相当と世界全体の記録が向上している傾向であった。今後は、新たなタレントの発掘と強化育成部と連携を図った強化方針を検討しなければならない。

（3）分析：

今大会における男子20㎞競歩に出場した選手112名中自己新記録40名、ナショナルレコード４名、女子20㎞競歩においては、88名中自己記録更新20名、ナショナルレコード８名、エリアレコード１名であった。結果から推察すると他国がいかに今大会に合わせ準備を進めてきたかを感じる成績であった。

また、今大会もそうであったが主要国際競技会における男女20㎞競歩においては、レース中盤までの駆け引き、急激なペースアップに対応できなければ入賞はおろか、順位を上げられない状況である。特に、メダル争いともなるとレース後半における最大スピードの維持と歩型が課題となってくる。

６．現地でのトレーニング、コンディショニングについて

現地でのトレーニングは、宿泊先のホテル内敷地に１周900m程度のコースが取れたためここを中心に行い、１㎞離れた場所には、陸上競技場があり３日間程度の調整期間においては全く問題がなかった。個別の練習サポートについても事前に内容を確認し、スタッフ間で共有し各選手とも順調にこなせたものと考えられる。

今回もトレーナーの帯同があり、日々のコンディションサポートにおいても十分なケアが行えていたと感じている。また、大会期間中の天候は全般的に晴れることが多く、気温20度前後で湿度も30％前後と低く過ごし易かったといえる。心配された大気汚染については思ったほど気にならず選手も不調を訴えることがなかったことからコンディショニングに影響はなかったと考えられる。

７．選手の自己評価

松永大介：想定範囲の記録ではあったが、優勝できなったことは悔しい。相手のペースアップに対応できなかったことが今後の課題である。

梛澤湧希：思うような結果ではなかったが、多くの先輩方からアドバイスを頂いたので次に繋げていきたい。

井上　麗：最低限の目標記録では歩けたが順位がついてこなかった。順位を上げるにはレース後半のペースアップが重要だと思った。

岡田久美子：競技環境が変わった中でのレースではあったが、落ち着いてレースを迎えることができた。しかし、全く勝負にならず、目標設定の難しさを痛感した。

道口　愛：自己記録やセカンドベストを目標に出場したが、全く太刀打ちできなかった。まずは、自分の競技力を高めていかなければ世界で活躍することは難しいと感じた。

鈴木雄介：先頭集団のレース展開に合わせたレースを心掛けメダル獲得を目標とした。レースの流れやペース変化に対応できたがラスト２周に課題が残った。

高橋英輝：レース中盤までは、無駄な力を使わずレース対応できたが、14㎞からの急激なペースアップに対応できず脚にきてしまった。世界で戦うには、15㎞以降のペース変化の対応力がなければ順位を上げられないと思った。

藤澤　勇：中盤からのペースアップに対応できなかった。今後は、最大スピードの強化が必要不可欠と感じている。フォームの改善とスピードプレーの質的向上が課題である。

西塔拓己：個人の結果については決して満足できるものではないが、個人目標より団体戦での貢献を意識していたので、チームとして銅メダルを獲得できたことは感無量である。

森岡紘一朗：序盤からレースの流れに乗れず、目標記録や順位を達成することができなかった。想定されるレース展開を意識し過ぎ、空回りした感じであった。

国際陸上競技連盟（IAAF）カウンシル会議報告

国際委員長　田中　克之（IAAFカウンシル）

2014年最初のIAAFカウンシル会議が４月14～15日の両日、セネガルのダカールで開催されたところ同会議の概要は下記の通りである。

なお、ダカールでのカウンシル会議開催は今回で３回目ということであるが、IAAFディアック会長の出身地であるだけに、同国大統領とIAAFカウンシル・メンバーとの会見の場を設けるなど政府やマスコミの気の使い方は特別であった。

今回のカウンシル会議の主要ポイントは、

（１）競技コミッションから、WAS（World Athletics Series＝IAAF主催競技会）刷新作業部会の検討結果を踏まえたものとして、カウンシルに対して主要大会の「魅力化」のための多くの提案がなされたこと。

（２）しかし、カウンシルの承認を得た提案は「マラソンの参加選手数は１か国３名とする」「賞金の配分方式を再検討する」など限られたものとなり、多くの提案はカウンシルの承認を得られず、同コミッションに再検討のために差し戻されたこと。

（３）トレイル・ランニングを陸上競技の枠内に取り込む決定をしたこと。

（４）2015年の北京世界選手権のタイムテーブルが承認されたこと（大会初日に男子マラソン、最終日に女子マラソン。スタート時間いずれも午前７時半）。

（５）2016年の世界ジュニア選手権開催地はロシアのカザンに決定したこと。

（６）2019年の世界選手権に関心を示している都市は、ドーハ（UAE）だけではなくバルセロナ（スペイン）やユージーン（アメリカ）もそうであると判明したこと。

（７）我が国の川村明弁護士を含む７名からなる倫理委員会が発足したことをディアック会長から改めて説明したこと。

１．WASのあり方を巡る議論

今回の会議で一番議論が行われたのはWASを如何（いか）に魅力的なものにするかという点についてであった。特に競技コミッションはその中に設置されたWAS刷新作業部会での検討を経て種々の提案をカウンシルに行ったが、カウンシルで種々議論された結果採択されたものは次の通りのみである。この他にも多くの提案があったが、多くは競技コミッション等で再検討するよう差し戻された。

（１）「2015年の北京世界選手権からマラソンの参加選手数は一国３名を上限とする。但（ただ）し前回大会の優勝者はこの枠外で参加可能とする」とする提案

モスクワの世界選手権までは特別枠の選手を除き各国の参加選手上限は５名であったが、既にマラソンのワールドカップ（団体戦）は世界選手権では併催されないことになっているので５名枠を維持する必要性はないとして異議なく承認された。他方、競技コミッションは「2017年のロンドン世界選手権より、道路競技を除く個人競技種目に参加する選手数は一国２名（これまでは３名）を上限とする。但しワイルドカード保持者（前回大会優勝者、ダイアモンドリーグ優勝者）はこの枠外で参加可能とする」との提案も行っていたがこれは認められなかった。

（２）「賞金配分方式を再検討する」提案

IAAFは1997年から賞金制を導入してきているがその配分方式は殆（ほとん）ど変わっていない。このため以前からこの配分方式を見直すべきだとの意見が存在した。競技コミッションは、世界クロスカントリー選手権の賞金について「チームとしての参加国を増やすため、個人への賞金を全廃し12位までのチームに賞金を配分する」との提案を行った。これには「陸上競技は基本的に個人競技であることを考えれば団体のみに賞金を配分することは非常識ではないか」との反論があり、結局「全体的に賞金の配分方式を再検討する」ことだけが承認された。

なお、競技コミッションに差し戻された提案としては上述の「世界選手権の道路競技を除く個人競技種目に参加する選手数は一国２名を上限とする」提案や「世界クロスカントリー選手権の賞金はチーム競技のみを対象とし個人競技は対象にしない」とする提案の他につぎのようなものがあった。

①「世界選手権の実施次期を８月の最後の２週間に固定する」提案（この提案は世界の陸上競技大会のカレンダー作りを容易にするためにはカレンダー作りの出発点となる世界選手権の期日を出来るだけ動かすべきではないという考えから行われたものである。しかしカウンシルでは「８月末に固定すれば、冬に当たる多くの南半球の国や北半球であっても中近東地域の国のように暑すぎて開催が困難な国を最初から排除することになる。将来の有力な開催候補国を排除することは陸上競技の世界的発展ということからも避けるべきだ」という意見が強かった）

②「スタジアム内で競技が行われるIAAF主催大会では、原則としてその表彰式は午後のセッション中は行わない。代替案として（A）午後のセッション開始前（B）午後のセッション終了後（C）LOCが提案しIAAFが了承する他の適当な場所（例えばファイナル・バンケット会場）等を考える」（これは、午後のセッション中に表彰式を行うことにより競技の続行が中断され、大変盛り上がった会場の雰囲気を削いでしまうとの懸念からでた提案であったが、カウンシルでは「表彰式は重要な舞台装置の一つ。観客は国旗、国歌により大きな感動を覚える。全ての表彰式を午後のセッション中

に行えとは言わないが、重要種目の表彰式を大観衆の前で行うことは雰囲気を削ぐどころか逆に高揚させることになる。表彰式を邪魔者のように考えるべきではない」等の反論が出された）

③「世界ユース選手権のメドレーリレー（100m＋200m＋300m＋400m）は男女別で実施されているが、2015年大会から一つの男女混合（男女２名ずつ）の４×400mリレーに変更する。走順は性別とは関わりなく参加国が決めることが出来る」（「国によってはこの種目に参加し得る女性選手を派遣できないために、これまでのメドレーリレーには参加し得たが今後はリレー種目に参加できないところがでてくるのではないか」などとの反論が出された）

２．カウンシルが承認した憲章や規則改正に関する事項

今回の会議では複数の委員会やコミッションから種々の規則等改正に関わる提案が行われたがカウンシルが承認した主要な提案は次の通り。

（１）「トレイル・ランニング（Trail Running）を陸上競技（Athletics）に包含するための憲章改正及び規則改正を行う」提案（道路競技コミッション提案）

これは憲章第２条の陸上競技の定義の中にトレイル・ランニングを追加し、併せて競技規則を改正しようとするもの。改正案は2015年北京総会で承認後同年11月１日に発効する。

（２）競技者代理人規定を一部改正する提案

①各地域陸連は競技者代理人の試験を「毎年行う」となっているところを「隔年に行う」に改正する提案

②競技者代理人の認証更新には「過去４年間に２回の講習会に参加したことを示す証拠の提出が必要」となっているところを「過去４年間に１回の講習会に……」と修正することが承認された。

（３）競技規則に新しい注釈を付ける提案

①国際写真判定員の任命に言及する競技規則第118条に、トラック競技結果を迅速かつ正確に発表し得るよう「国際写真判定員が任命されている大会においてはその判定員は写真判定員主任となる」旨の注釈を付すこと

②男女混合の競技を認める条件に言及する競技規則第147条については、同規則の趣旨が「レースを成立させるに十分な男性もしくは女性競技者数に達しない場合のことを念頭に置いたものであり、女性の競技レベルを上げるとか、ラウンド通過のため女性にペースメーカー的助力を与えることを念頭に置いたものではない」旨の注釈を付すことが承認された。

３．今後のWAS等IAAF競技会の期日及び参加標準記録の承認

（１）次の大会期日が承認された。

①2015世界リレー（バハマ）の開催期日は５月２～３日。

②2016世界ハーフマラソン選手権（英国・カーデイフ）の開催期日は３月26日。

③2016ワールドカップ競歩（ロシア・チェボクサリ）の開催期日は５月７～８日。

（２）2015年北京世界選手権の10000m、マラソン、競歩及び混成競技の参加標準記録承認ならびにタイムテーブルの承認

①承認された参加標準記録はつぎの通り。これら種目の有効期間（Qualifying Period）は2014年１月１日開始。これら以外の種目の参加標準記録は本年11月のカウンシル会議で決定される予定。又その有効期間は2014年10月１日開始。

男子	種目	女子
27:45.00	10000m	32:00.00
2:18:00	マラソン	2:44:00
8075	十種競技/七種競技	6075
1:25:00	20km競歩	1:36:00
4:06:00	50km競歩	—

②タイムテーブルが承認された。なお、男子マラソンは大会初日、女子マラソンは大会最終日、いずれも午前７時30分スタート。承認されたタイムテーブルは、IAAFのサイトからダウンロード可能である。http://www.iaaf.org/competitions/iaaf-world-championships

４．2016年世界ジュニア選手権の開催都市の決定

ロシアのカザン市が唯一の立候補市で、ロシア陸連、カザン市関係者の説明を聞いた後、同市を開催都市とすることをカウンシルが承認。なお、同市は2013年にユニバーシアード大会を成功裡に開催している。

５．今後のWAS大会誘致に関心を示す都市

ガブリエル事務総長より今後のWAS大会誘致につぎの都市が関心を示している旨の説明があった。

（１）2017 年世界クロスカントリー選手権：マナマ（バーレーン）及びカンパラ（ウガンダ）

（２）2017世界ユース選手権：ブエノスアイレス（アルゼンチン）、ナイロビ（ケニア）、グリーンズボロ（アメリカ）

（３）2018コンチネンタルカップ：オストラバ（チェコ）、ビドゴシチ（ポーランド）

（４）2019世界選手権：バルセロナ（スペイン）、ドーハ（カタール）、ユージーン（アメリカ）

６．倫理委員会の発足

去る３月中旬に我が国の川村明弁護士を含む７名の倫理委員の氏名・経歴がIAAFから発表されていたが、ディアック会長は今回のカウンシル会議の席上、改めて７名の委員により倫理委員会が名実ともに発足したことを説明した。併せて、同委員会は完全に独立した存在であること、委員長には英国のMichael Beloff氏が就任したこと、世界６地域すべてから委員が選ばれていること、各委員はいずれも世界に誇れる人物であること、６月に最初の会議を開催することなどを説明した。

JAAFアスリート発掘育成プロジェクトクリニック事業について

普及育成委員会

陸上競技の普及活動とタレントの発掘・都道府県陸協との連携を行うことを目的として、2009年度よりスポーツ振興くじ助成金の助成を受け開催してきた。2013年度までの開催実績はU-13（小学生対象）：46会場、U-16（中学生対象）：58会場、U-19（高校生対象）：40会場の全国144会場で開催することができた。これもひとえに講師として派遣している委員会の方、参加者の募集から当日の運営までの対応をいただける開催地陸協の方の多大なる協力の賜物（たまもの）と感謝している。2013年度からはU-19（高校生）のカテゴリーは終了し、U-13（小学生）、U-16（中学生）に絞って開催することとした。開催地は、日本全国を９ブロックに分け、各ブロックでそれぞれすべてのカテゴリーの教室を開催するという条件で各教室の開催都道府県を各地域陸協で決定した。2013年度はU-13：９会場、U-16：11会場、合計20会場で開催し、講師を全国に派遣した。全国で2,656名の選手を対象に指導し、地方での取り組みや有望選手の情報収集を行うことができた。

U-13クリニックは、午前中に開講式、水分補給に関する講義に引き続き、楽しい遊びを中心とした基本の運動の講習を行い、午後は種目別の実技を開催した。午前中の最後に全員にコントロールテスト（クイックジャンプ）を実施した。また保護者、指導者向けに午前に発育発達の講義を、午後に食育の講義を開催した。

U-16クリニックは、午前中の開講式に続いて、走、跳、投の基本練習を３グループに分けローテーションで行った。午前中の最後に全員にコントロールテスト（20mホッピング、クイックジャンプ）を実施した。昼休みの後に、栄養に関する講習を実施した。午後は種目別に専門練習を行った。また、当日参加している指導者向けに、発育発達に関する講義を実施した。

2013年度U13クリニック・山梨会場

2013年度U16クリニック・三重会場

2014年度もU-13（小学生）：９会場、U-16（中学生）：11会場で実施を予定している。本年度も数多くの小学生、中学生に陸上競技の基本と楽しさを伝えていきたいと考えている。

〈2013年度実施会場〉

U-13（小学生対象）		
開催日	都道府県	開催競技場
7/28（日）	山　形	鶴岡市小真木原陸上競技場
8/4（日）	長　野	松本平広域公園陸上競技場
8/18（日）	宮　崎	宮崎県立総合運動公園陸上競技場
9/1（日）	北海道	旭川市花咲スポーツ公園陸上競技場
9/16（月）	石　川	石川県西部緑地公園陸上競技場
12/1（日）	和歌山	紀三井寺公園陸上競技場
12/8（日）	山　梨	小瀬陸上競技場
12/15（日）	徳　島	鳴門・大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアム
2/8（土）	岡　山	岡山県陸上競技場補助競技場
U-16（中学生対象）		
開催日	都道府県	開催競技場
8/25（日）	北海道	千歳青葉公園陸上競技場
9/1（日）	沖　縄	沖縄県総合運動公園陸上競技場・ 補助競技場
9/22（日）	広　島	コカ・コーラウエスト広島スタジアム
9/29（日）	青　森	青森県総合運動公園陸上競技場
11/17（日）	福　井	福井県営陸上競技場
12/8（日）	東　京	上柚木競技場
12/23（月）	香　川	香川丸亀競技場
2/9（日）	鹿児島	伊集院総合運動公園陸上競技場
3/16（日）	栃　木	栃木県総合運動公園陸上競技場
3/22（土）	滋　賀	希望が丘文化公園陸上競技場
3/23（日）	三　重	三重県営総合競技場陸上競技場

〈2014年度実施会場〉

U-13（小学生対象）		
開催日	都道府県	開催競技場
7/27（日）	愛　媛	愛媛県総合運動公園陸上競技場
8/17（日）	北海道	小樽市手宮公園陸上競技場
9/7（日）	東　京	味の素ナショナルトレーニングセンター 陸上トレーニング場
9/15（月）	福　島	信夫ヶ丘競技場
10/5（日）	滋　賀	甲賀市水口スポーツの森陸上競技場
11/2（日）	鹿児島	日置市伊集院総合運動公園 陸上競技場
11/24（月）	山　口	維新百年記念公園陸上競技場
12/14（日）	福　井	三国運動公園陸上競技場
3/15（日）	三　重	三重県営総合競技場陸上競技場
U-16（中学生対象）		
開催日	都道府県	開催競技場
8/17（日）	北海道	北見市東陵公園陸上競技場
8/31（日）	沖　縄	名護市営陸上競技場
11/16（日）	岩　手	金ヶ崎町森山総合公園陸上競技場
11/23（日）	新　潟	デンカビッグスワンスタジアム
11/30（日）	佐　賀	佐賀県総合運動場陸上競技場
12/7（日）	静　岡	静岡県草薙総合運動公園陸上競技場
12/14（日）	茨　城	笠松運動公園陸上競技場
12/20（土）	京　都	京都府丹波自然公園陸上競技場
1/18（日）	群　馬	正田醤油スタジアム群馬
1/25（日）	鳥　取	コカ・コーラウエスト スポーツパーク陸上競技場
3/22（日）	高　知	春野総合運動公園補助競技場

国際陸上競技連盟（IAAF）競歩委員会報告

強化委員会競歩部長　今村　文男（IAAF競歩委員会委員）

ワールドカップ競歩大会（中国・太倉）が終了した翌日の2014年５月５日（月）にIAAF競歩委員会会議が開催された。会議の冒頭にガブリエルIAAF事務総長から2014年戦略プランや今後のIAAF諸活動の報告と説明があった。特に魅力ある競技会にするために３月に行われた世界ハーフマラソン選手権（デンマーク・コペンハーゲン）を例に挙げ、一部のエリートのみの大会ではなく、一般市民も参加でき、地域、社会が一体となって多くの人々が陸上競技に関わることが今後は重要であり、競歩種目においても、今次開会式で実施したMass Walkのように多くの一般市民も参加できるイベントを取り入れながら競歩の変革に取り組んで欲しいと期待を寄せていた。

会議では、各報告とともに複数の議題について審議した。以下に示すのは今会議の主な議題および協議事項と報告事項である。

日　時：2014年５月５日（月）９：00～18：00

場　所：中国 江蘇省太倉市 フォーポインツ バイ シェラトン太倉

議　題：開会宣言（マウリシオ・ダミラノ委員長）／IAAFの活動および最新情報について（ガブリエルIAAF事務総長）／前回会議の議事録承認（2013年２月９日モナコ）／ロスオブコンタクト電子検出システム／ピットレーンルール／国際競歩審判員育成・認定システム／競歩チャレンジ2014・今後について（カテゴリーＢおよびC）／2014年ワールドカップの評価／2015年北京世界選手権（コースおよびコース路面、タイムテーブル）／2016年オリンピック（コースとタイムテーブル）／その他協議事項（競歩審判集計表の公開・女子50km競歩）／次回会議について

【ピットレーンルールについて】

委員会としての推薦事項

- 2014年より16才以下のカテゴリーでの全国大会では可能な限り何らかのピットレーンルールによって運営し、出来る限り失格を減らすようにする。
- セザール・モレノ、ミゲル・アンヘル・ロドリゲス（以上メキシコ）、ルイス・サラディエ（スペイン）を作業部会として委員会より指名し、当初の2012年案を見直して2014年までにより運営に適した方法を検討する。
- また、ユースオリンピックの競技会としての革新的な考えに則って、2014年の大会ではピットレーンルールが採用される。また、そのために2014年ワールドカップ競歩では組織委員会によってテストイベントが開催された。
- 2016年ワールドカップ競歩 チェボクサリ大会（ロシア）では、ピットレーンの導入を検討することとなった。
- これら2014年におけるテストを2015年に評価し、それによって今後のジュニアカテゴリーでの採用に向けて検討することとなった。

ナショナルレベルにおいては、馴染みのないルールとなるが日本国内においては教育制度の区分（中学、高校など）であるため実施にあたっては、どのようにカテゴリー分けをするか、検討していかなければならないと言える。

【国際競歩審判員育成・認定システムについて】

2013／2014年の審判員指名

世界選手権やオリンピックなど主要国際競技会では経験の最も多い審判員を指名することを委員会として推奨するということが承認されている。また、名簿はすでに配信している。

審判員判定能力調査

国際審判員としての判定能力について、現在はIAAF主要競技会のみで評価されているが、これを委員会として地域競技会にまで拡大することを検討するものとしたい。これは委員会の地域代表あるいは地域競歩委員会の委員長（あるいはそれと同等のもの）が行うものとする。評価ガイドラインは作業部会（マウリツイオ・ダミラノ、ピーター・マーロウ、ルイス・サラディエ）にて原案を作成し、次回委員会で議論して、2015年の新パネルから取りかかるようにしていきたい。

地域競技会および国内認定大会の承認について

世界選手権、オリンピック等の競技会の参加標準記録には国際競歩審判員（IAAFレベルおよび地域レベル）の必要人数が定められている。しかし、いくつかの地域および国では、地域内からの審判員招聘（ショウヘイ）でなく、地域外から審判員を招聘しているケースがあり、いくつか望ましくない点があるものと考えている。

- 開催される域内での地域審判員の判定機会が少なくなる。
- 同じ審判員（通常はヨーロッパ）が外国より招待されている場合がある。
- 国際審判員の判定機会が平等でなくなる。

作業部会では地域および国内競技会での審判員指名のガイドライン原案を作成し、各地域陸連に配信する予定である。

IRWJ（国際競歩審判員）のエバリュレーション

日　時：2014年10月25日（土）～26日（日）

場　所：ロンドン・ヒースロークラウンプラザホテル

現在求められる状況：2015年から2018年までに30名のIRWJ（IAAFレベル）が必要となる。年度ごとでは2015年が15名（世界ユース、世界選手権）、2016年が24名（世界ジュニア、ワールドカップ、オリンピック）、2017年が15名（世界ユース、世界選手権）、2018年が21名（世界ジュニア、ワールドカップ、ユースオリンピック）。４年間で75名である。　また、現在ではIRWJ（IAAFレベル）が31名おり、エリアレベルのIRWJのために18名分の予算を用意しているという状況である。

資　格：IAAFが現在候補者の要件としているのは以下
IRWJ（IAAFレベル）は評価の時点で70才以下
IRWJ（エリアレベル）は評価の時点で60才以下であり、IRWJ（エリアレベル）として最低１年の経験があること。

日　程：10/24 到着、10/25 セミナーおよび評価、10/26 評価、10/27 出発

財政支援：旅費については現在のIRWJ（IAAFレベル）については全額、IAAF（エリアレベル）については半額をIAAFが負担。滞在費については参加者負担となる。

送迎および予算：送迎、滞在についてはIAAF競技部が計画・運営し、予算についても同様である。

言　語：英語にて実施。

試験委員：委員会にて指名する。

試験内容：つぎの5部門に分ける。口頭、筆記、ビデオ、体力、視覚。（体力および視覚テストについて現在、ITOのテストでは行われていない）

以上の情報はIRWJ（IAAFレベル）向けには既に伝えられ、また、IRWJ（エリアレベル）については予算割当額内の人数氏名また、それ以外の人数氏名を回答するように伝えられることになる。

現在、日本にはIRWJ（エリアレベル）が２名いるが、2020年東京オリンピックまでには、是非ともIAAFレベルに加わり日本の判定水準の高さを示して欲しいところである。

また、特記事項として委員会において、IRWJがコーチングなど選手の現場指導に直接、関わらないことが望ましいことを確認した。この点について国内では、JRWJ（日本競歩審判員=IAAFレベルⅠ）が組織化されているが、その多くの競歩審判員は、直接、選手指導にあたっているのが現状である。今後、IRWJを目指すのであればこの点に留意し、計画的かつ組織的に取り組んでいかなければならないと言える。

【エリアからの要望、協議事項】

アメリカ：ワールドカップ競歩に新種目・女子50km競歩の提案。

委員会として、参加人数、競技レベルなど一定水準に達しない状況が予想され現状では新設しない方向となった。

オーストラリア：IAAF主要競技会のサマリーシート（判定集計表）の情報開示の要望があった。委員会として、サマリーシート（審判名の公表含む）の情報開示を前提に、その公開の方法や管理について引き続き検討することとなった。

また、委員会として2015年北京世界選手権の競歩コースについて、2008年北京オリンピック競歩コースのようなゴムマットを敷かない、競技場に近いアスファルトのコース設定を大会組織委員会に要望していくことを確認した。なお、周回コースの距離について１kmまたは２kmにするかは、引き続き協議していくことになった。

2014数字で見る陸上競技Vol.2　都道府県公認審判員数

事　務　局

シリーズ「2014数字で見る陸上競技」の連載第2弾。
Vol. 2では、各都道府県陸上競技協会における2013年度公認審判員の登録人数を掲載します。

2014年2月14日現在

NO	陸協名	S級		A級		B級		小計		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
1	北海道	210	12	280	24	736	168	1,226	204	1,430
2	青　森	80	1	107	5	387	82	574	88	662
3	岩　手	80	1	111	15	298	41	489	57	546
4	宮　城	92	6	162	28	396	82	650	116	766
5	秋　田	99	0	113	7	466	52	678	59	737
6	山　形	94	0	137	11	430	92	661	103	764
7	福　島	119	5	260	21	241	73	620	99	719
8	茨　城	78	3	146	13	302	62	526	78	604
9	栃　木	55	2	106	5	184	43	345	50	395
10	群　馬	72	1	110	5	506	75	688	81	769
11	埼　玉	79	0	327	48	341	68	747	116	863
12	千　葉	89	1	249	21	739	145	1,077	167	1,244
13	東　京	388	35	423	93	403	134	1,214	262	1,476
14	神奈川	212	1	287	17	1,008	199	1,507	217	1,724
15	山　梨	96	5	139	24	328	89	563	118	681
16	新　潟	75	0	167	4	761	117	1,003	121	1,124
17	富　山	87	3	155	12	196	41	438	56	494
18	石　川	81	4	134	8	286	66	501	78	579
19	福　井	38	1	81	2	307	65	426	68	494
20	長　野	124	0	123	7	491	93	738	100	838
21	静　岡	196	6	239	30	533	135	968	171	1,139
22	愛　知	110	4	168	11	606	188	884	203	1,087
23	岐　阜	61	3	143	11	314	77	518	91	609
24	三　重	38	0	91	10	289	92	418	102	520
25	滋　賀	73	1	218	20	283	99	574	120	694
26	京　都	114	3	188	19	739	285	1,041	307	1,348
27	大　阪	156	5	326	59	663	212	1,145	276	1,421
28	兵　庫	87	2	306	17	645	85	1,038	104	1,142
29	奈　良	11	1	89	4	114	38	214	43	257
30	和歌山	21	1	112	9	267	66	400	76	476
31	鳥　取	39	4	162	14	96	22	297	40	337
32	島　根	68	3	144	23	471	83	683	109	792
33	岡　山	51	3	238	44	227	81	516	128	644
34	広　島	170	7	241	30	438	89	849	126	975
35	山　口	109	2	176	21	345	69	630	92	722
36	徳　島	25	2	77	6	126	52	228	60	288
37	香　川	24	0	107	6	125	34	256	40	296
38	愛　媛	47	2	128	8	240	72	415	82	497
39	高　知	32	1	87	15	108	31	227	47	274
40	福　岡	157	7	290	34	657	215	1,104	256	1,360
41	佐　賀	60	1	100	11	96	35	256	47	303
42	長　崎	51	3	108	7	381	76	540	86	626
43	熊　本	86	3	209	26	251	99	546	128	674
44	大　分	92	1	140	33	297	111	529	145	674
45	宮　崎	35	3	82	11	318	71	435	85	520
46	鹿児島	71	2	187	21	410	128	668	151	819
47	沖　縄	57	1	97	13	121	53	275	67	342
		4,289	152	8,070	883	17,966	4,385	30,325	5,420	35,745

大会観戦ガイド

第17回アジア競技大会（2014／仁川）

会期：2014年9月27日（土）～10月3日（金）
会場：Incheon Asiad Main Stadium

今号が発売される時には全代表選手が決定している第17回アジア競技大会。韓国・仁川の地で開催される今大会での選手の雄姿に、多くのご声援をお願い致します！

第17回アジア競技大会（2014／仁川）　競技日程

期　日	時　刻	種　目	
9/27（土）	08：00	男子20km競歩	決　勝
	11：00	女子20km競歩	決　勝
	18：00	女子100m	予　選
	18：10	女子走幅跳	予　選
	18：25	男子ハンマー投	決　勝
	18：30	男子100m	予　選
	18：55	女子砲丸投	決　勝
	19：10	女子10000m	決　勝
	20：05	女子400m	予　選
	20：40	男子400m	予　選
	21：00	男子5000m	決　勝
	21：30	女子3000m障害物	決　勝
9/28（日）	10：00	女子七種競技　100mH	
	10：05	男子走幅跳	予　選
	10：30	男子1500m	予　選
	10：40	女子七種競技　走高跳	
	10：50	女子1500m	予　選
	11：15	男子400m	準決勝
	11：35	女子400m	準決勝
	18：00	男子棒高跳	決　勝
	18：05	女子七種競技　砲丸投	
	18：10	女子ハンマー投	決　勝
	18：20	女子100m	準決勝
	18：35	男子100m	準決勝
	18：55	女子400m	決　勝
	19：10	男子400m	決　勝
	19：55	男子110mH	予　選
	20：25	女子七種競技　200m	
	20：40	女子100m	決　勝
	20：50	男子100m	決　勝
9/29（月）	10：00	女子七種競技　走幅跳	
	11：30	女子七種競技　やり投	
	18：00	男子走高跳	決　勝
	18：05	女子七種競技　800m	
	18：30	女子走幅跳	決　勝
	18：35	女子1500m	決　勝
	18：45	男子1500m	決　勝
	19：00	女子円盤投	決　勝
	19：05	女子4×100mリレー	予　選
	19：55	男子4×100mリレー	予　選
	20：35	男子3000m障害物	決　勝
	21：15	男子4×400mリレー	予　選
	21：40	女子4×400mリレー	予　選
9/30（火）	10：00	男子十種競技　100m	
	10：25	女子400mH	予　選
	10：40	男子十種競技　走幅跳	
	10：55	男子400mH	予　選
	12：00	男子十種競技　砲丸投	
	18：00	女子棒高跳	決　勝
	18：05	男子十種競技　走高跳	
	18：10	男子円盤投	決　勝
	18：10	女子100mH	予　選
	18：35	女子200m	予　選
	19：00	男子走幅跳	決　勝
	19：05	男子200m	予　選
	19：35	女子800m	予　選
	20：05	男子800m	予　選
	20：40	男子110mH	決　勝
	20：55	男子十種競技　400m	
10/1（水）	07：00	男子50km競歩	決　勝
	09：00	男子十種競技　110mH	
	09：15	男子三段跳	予　選
	09：25	女子200m	準決勝
	09：40	男子十種競技　円盤投	
	09：45	男子200m	準決勝
	11：00	男子十種競技　棒高跳	
	18：00	男子十種競技　やり投	
	18：05	女子100mH	決　勝
	18：20	女子三段跳	決　勝
	18：40	女子800m	決　勝
	18：55	男子800m	決　勝
	19：20	女子200m	決　勝
	19：30	男子200m	決　勝
	19：40	女子やり投	決　勝
	20：05	女子400mH	決　勝
	20：20	男子400mH	決　勝
	21：00	男子十種競技　1500m	
10/2（木）	09：00	女子マラソン	決　勝
	18：00	女子走高跳	決　勝
	18：10	男子やり投	決　勝
	18：20	男子三段跳	決　勝
	18：25	女子5000m	決　勝
	19：05	女子4×100mリレー	決　勝
	19：20	男子4×100mリレー	決　勝
	20：05	男子4×400mリレー	決　勝
	20：15	女子4×400mリレー	決　勝
	20：25	男子砲丸投	決　勝
	20：50	男子10000m	決　勝
10/3（金）	09：00	男子マラソン	決　勝

（2014仁川アジア競技大会組織委員会発行テクニカルハンドブックより）

※競技日程は最終エントリー数等により、変更の可能性がある。

JAAF HOKKAIDO 一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626　札幌市白石区本通5丁目南4番11号
KJビル3号棟2階205
TEL.011-598-7407　FAX.011-598-7408
http://hokkaido-rikkyo.jp/

2014年シーズンイン、日本グランプリシリーズ等で北海道のアスリートは順調なスタートを切りました。GP第２戦日本選抜和歌山大会で、社会人１年生の平加有梨奈選手（北海道ハイテクＡＣ）が、走幅跳６m34で優勝したのをはじめ、水戸招待では増野元太選手（国際武道大学）が、110mH13秒63の大会新で優勝するなど活躍し、今シーズンいっそうの活躍が期待されています。

また、現在は実業団スズキ浜松ＡＣ所属の右代啓祐選手（札幌第一高校出身）が、十種競技8308点の自己の日本記録を更新したことは、陸上関係者として心から賛辞を贈ります。

道内で開催される公認競技会は、190競技会を数え、ホクレン・ディスタンスは４会場で、南部陸上は３カ国交流大会として、北海道マラソンは、今年も参加者の拡大を行い例年どおり開催されます。

札幌厚別競技場が、来年の全国中学に向けて改修工事に入り、今年は６月以降全ての競技会が、札幌円山競技場での開催となります。

JAAF IWATE 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822　盛岡市茶畑2-8-27
TEL.019-621-8460　FAX.019-656-9006
http://long-distance.jp/iwate/

５月に入り陸上シーズンの候、小学校から中学校・高校・一般と各種大会が実施されている。

今年度、岩手陸協では、２年後の第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」を前に８～９月にかけて大きな大会を迎えることとなります。

８月の日・韓・中ジュニア交流大会に始まり、全国聾学校陸上競技大会、アジアマスターズ大会と続けて開催することとなるが、「いわて国体」開催に向けてしっかりと地固めをしてゆきたい。

また、近年選手たちも全国大会での入賞や各種大会での活躍が目立ち、楽しみな選手も多く、国体に花を添えられるように一層強化をしてゆきたい。

日本陸連や多くの方々のご指導のもと、競技運営と強化が一丸となって２年後の国体が成功裡に終了できるよう頑張りたいものである。

JAAF AOMORI 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021　青森市安田字近野234-7　青森県営陸上競技場内
TEL.017-766-5457　FAX.017-782-5154
http://www.jomon.ne.jp/~arikkyo/

2014年度の競技会も４月には各地区大会・５月には県春季選手権を開催いたしました。法人化の４年目を迎えて５月には23年度最後の理事会と評議員会を開催いたしましたが、出席者の数が会議成立条件にぎりぎりの厳しい状況が見られました。新年度の計画としては、青森陸上競技協会創立90周年を迎えるにあたり、記念誌の発行と記念式典の開催および祝賀会を27年の２月に開催する予定といたしました。また、オリジナルの記念品をつくり販売することといたしました。

今年度の本県の期待する選手は、昨年世界選手権女子マラソン銅メダル獲得の福士加代子選手・400mHの岸本鷹幸選手です。今まで以上に世界での活躍を期待しているところです。また、春季大会で県高校新記録樹立のやり投の工藤達郎選手、女子では走高跳の須々田佳穂選手にはインターハイでの上位入賞を期待しております。また、国体及び都道府県対抗駅伝等においては今まで以上の順位の繰り上げを目指して取り組んでいきたいと思います。弘前市の陸上競技場改修のため競技会の開催が青森市とむつ市を中心に開催の予定です。特に、むつ市には県民体育大会・国体予選・中学通信陸上・ジュニアオリンピック県予選会と７月と８月に４競技会の開催をお願いすることとなりました。本県には、公認の全天候型陸上競技場が９競技場ありますが、補助競技場が付設されているのは青森市にある県営競技場のみであり、29年度完成予定で進められている新陸上競技場の完成が待ち遠しい限りです。

（文責：理事長　安田信昭）

JAAF MIYAGI 一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122　宮城郡利府町菅谷字舘40-1宮城県総合運動公園内
TEL.022-767-2194　FAX.022-767-2194
http://jaaf-miyagi.com/

４月12、13日の東北学連春季競技会、そして４月26、27日の当協会主催の宮城県春季陸上競技選手権大会で2014年度をスタートいたしました。

当協会は、今年度も選手の競技力強化並びに競技者育成および普及活動の二本柱を基本方針に定めて各事業に取り組んでまいります。

第24回仙台国際ハーフマラソン大会を、５月11日（日）仙台市中心部の日本陸連公認コース（21.0975km）で開催いたしました。新緑輝く杜の都で満喫できるのが魅力と市民ランナーの間で人気が過熱気味、更に東日本大震災の被災地支援に貢献したいという県外ランナーも含め13,583人（ハーフ登録・一般の部　10,834人、車いすの部　35人、５kmの部　2,245人、２kmの部　469人）と例年より850人上回る過去最多の出場者でした。ハーフ登録の部男子は、ヨハナ・マイナ選手が１時間１分43秒で２度目の優勝を飾りました。ともに特別招待選手で今秋の仁川アジア大会男子マラソン代表の川内優輝選手は４位、ロンドンオリンピック代表の藤原新選手は19位でした。女子は岡田唯選手（大塚製薬）が１時間11分27秒で初制覇。杜の都から女子長距離界に新生が現れました。又、高橋尚子さんがゲストランナーとして参加し、出場選手にエールを送ったり、コースを走り回って交流を深め、大会の盛り上げに一役買っていただきました。

（文責：理事長　殿内信一）

陸協NEWS

JAAF AKITA 秋田陸上競技協会

〒011-0911　秋田市飯島字飯島水尻454-3
TEL.018-845-0099　FAX.018-845-0099
http://akita-riku.fiw-web.net/

小・中学生の強化対策について

年々少子化の影響が顕著に現れ競技人口が減少してきている中、陸上競技に関心を持ってもらうための対策が必要となってきている。

小学生に対しては、県選手権大会のオープン種目にランキング上位者の出場の機会を作ったり、全国交流大会前に合宿を組んで陸上への関心・向上心を培ってきた。今年度は、県外派遣を検討している。

一方、中学生に対しては、独自の強化指定に加え、県体協の中学生強化指定選手制度を活用し、選手の意識の向上を図っている。

何れにせよ、普及・強化の連携、小・中・高の一貫した指導が必要であり、一層の組織強化をはかり先を見越した対策ができればと思う。

（文責：理事長　鈴木文男）

JAAF FUKUSHIMA 福島陸上競技協会

〒960-8135　福島市腰浜町3-41
TEL.024-534-0331　FAX.024-534-0339
http://gold.jaic.org/fukushima/

6月6日（金）～8日（日）に、とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）において、第98回日本陸上競技選手権大会を開催しました。福島県で初めての開催で、様々な面で戸惑いながらの開催でしたが、日本陸上競技連盟の方々の熱心なご指導のお陰で、大きなミスもなく無事大会を終われて安堵しているところです。福島県での全国規模の大会は、約20年前の平成7年の「ふくしま国体」以来の開催で、競技役員も高齢化してきております。そんな中で、20歳代～40歳代の競技役員もこの大会を開催したことで、増えていることは確かで、今後つながるものと確信しています。

さて、競技も連日素晴らしいレースが展開され、特に、初日は福島市内の小学生約2,500名の6年生が芝生スタンドで競技を見学し、子供達も様々な面で得られることが多かったものと思いますし、競技する選手も力が入ったのではないでしょうか。

また、各種目優勝者への花束贈呈やリレーに出場した小中高校生は、大きな刺激を受けたものと思います。震災から3年3カ月、福島県民は日本一流の競技者を目の当たりにして、感動、驚きとともに、自分もやってみようとする意欲がわいてきたものと思います。今後の陸上競技人口の増加と、まもなく開催される東京でのオリンピックに、参加できる福島県からの選手が育つことを大いに期待しています。最後に、競技場に来られて応援していただいた方々に心より感謝すると共に、日本陸上競技連盟はもとより、県･市や様々な面で応援下さった地元企業の皆様に、「本当にありがとうございました」。

（文責：理事長　佐藤勇）

JAAF YAMAGATA 一般財団法人山形陸上競技協会

〒994-0103　天童市大字川原子1445番地の2
TEL.023-657-3070　FAX.050-7561-0534
http://jaaf-yamagata.jp/

本県開催決定の2017インターハイ陸上競技は、2020東京オリンピックの中間点と位置づけられ、オリンピック選手の輩出に大きな期待が寄せられます。5期目を迎えた小学生対象の県事業である「オリンピック選手輩出プロジェクト・山形県スポーツタレント発掘事業」に本協会は積極的に参画しており、1期・2期の卒業生は現在中学2・3年生で、57名のうち21名が陸上競技を選択しています。小学生時代は専門的にならず多彩な運動をしてきましたが、種目の適性を見極める時期となっています。勿論、この卒業生に限らず多くの中学・高校生を対象に選手育成事業を強化部と普及部が連携して展開していますし、競技のトランスファーも大歓迎と期待しています。

トラックシーズンが本格化。ＮＤソフトスタジアム山形を会場に、7月5・6日は中学生の全日中通信、11～13日は高校・大学・一般選手の県選手権大会（兼）国体予選、21日は小学生陸上、19・20日は中学生が鶴岡市小真木原陸上競技場を舞台として、全ての年代の地区を勝ち抜いた選手たちによる熱い闘いが、毎週展開されます。未来のトップアスリートに好記録を期待しています。一方、競技会を運営する公認審判員数は約800名と横ばいですが、高齢化が進んでおり、炎天下での業務はキツイものがあるように見受けられます。3年後となったインターハイを契機として審判員の拡大に向けた取り組みを検討し始めましたが、具体的にはこれからと言ったところですが、審判資格を取得して魅力ある競技会運営に携わる方が1人でも多くおられることを切望しています。

（文責：専務理事　矢萩治男）

JAAF IBARAKI 茨城陸上競技協会

〒311-4151　水戸市姫子2-349-13　潮田茂様方
TEL.029-253-4661　FAX.029-291-5362
http://irk.bent.jp/

年度改まった4月、本陸協も今シーズンに向けての新たなスタートを切りました。その手始めの事業として5日に総会を行い、会長以下80名に及ぶ理事の方々の出席を賜り、滞りなく終了しました。午後からの中央審判講習会は、既得者183名・新規受講者74名・総勢257名の参加を見て会場は溢れんばかりの盛況ぶりとなりました。茨城国体5年前という節目を迎え、競技役員の方々の国体に対する気運の高まりといったものを強く感じたところであります。尚、審判講習会はこの後、地域陸協向けに県内3ヶ所で実施の運びとなります。

5月6日には、今年より日本陸連の後援競技会となった第6回水戸招待陸上を盛大に開催しました。男女12種目に国内外から130名の招待選手が集い、場内を埋め尽くした観客は、選手の皆さんの力感漲る走姿や、華麗なるパフォーマンスに酔いしれました。あいにくの曇天、新緑の候には程遠い寒気に晒されながらも、6つの大会新が誕生するなど活況を呈した大会となりました。また、小･中･高生による競技会も同時に行われ、1,000名を超える参加者達は、トップレベルの選手の皆さんの活躍を目の当たりにして大いに刺激を受けた大会となりました。

21日からは、高校生アスリート憧れの舞台インターハイへの第二の関門ともいうべき、県高校総体が行われます。厳しい冬期練習を経て一段と逞しくなった選手達の健闘を期待したいと思います。併せて、いよいよトラックシーズンたけなわの時節、各種別での本県選手の活躍を祈念しております。

（文責：理事長　潮田茂）

事務局からのお知らせ

◆◇男女ナショナルリレーチームの愛称を発表致しました！◇◆

韋駄天スプリンターズ
iDATEN SPRINTERS

椿スプリンターズ
TSUBAKI SPRINTERS

男子ナショナルリレーチームの愛称「韋駄天スプリンターズ」足の速い神様とされる「韋駄天」のごとく、日本を代表するスプリンターたちが、どの国よりも速くトラックを駆け抜けてほしいという願いが込められています。

女子ナショナルリレーチームの愛称「椿スプリンターズ」ナショナルチームのスプリンターたちが「椿」のしなやかな枝のように力強く、そして日の丸のような赤い花を咲かせ、世界で輝いてほしいという願いが込められています。

愛称公募にご応募頂いた皆様に感謝申し上げます。これからも応援どうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆◇陸上競技ルールブック2014年度版を4月より全国の書店、ネット書店で販売開始しました。◆◇

陸上競技関係者や愛好家のための2014年度版ルールブックの発売を開始しました。

修改正のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック。

お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからもご購入いただけます。

お電話でのご注文の場合：0120-911-410
（ベースボール・マガジン社 受注センター）
受付時間：月～金　10：00～12：00、13：00～16：00
（祝祭日を除く）
ホームページからご注文の場合：
ベースボール・マガジン社のウェブサイトへ。
http：//bookcart.sportsclick.jp

競技規則を正しく把握して、審判技術の理解を深め円滑な競技会運営を実行するために審判員必携のハンドブック、審判員のための2013－2014年度版審判ハンドブックは昨年4月から変わらず発売中です。

陸連時報編集委員

◇編集委員
横川　浩（陸連会長）
三宅　勝次（陸連副会長）
友永　義治（陸連副会長）
尾縣　貢（陸連専務理事）
原田　康弘（陸連強化委員長）
風間　明（陸連事務局長）
高橋　克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
森　泰夫
◇時報編集担当
繁田　進
石塚　浩
木越　清信
宮田　宏
本田香代子
森谷　真咲

陸連時報編集室
〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト http://www.jaaf.or.jp/
公式動画サイト http://japanathletics.tv/